



407号

錦城高等学校新聞委員会 編集室 2023

みんなでつくる 錦城高校新聞

一面：今年の卒祝会は どんなもの？
二面：卒祝会の立役者の 声を紹介しします！

思い出に残る行事を



各教室に新しく導入された電子黒板を用いて 本部企画の内容を話し合っている

卒祝会 2年連続開催へ

3月14日(火)の13時30分から第1体育館にて、昨年に引き続き2度目となる卒祝会が開催される。今号では、卒祝会の概要や動きについて紹介する。

三送会から卒祝会へ

新型コロナウイルスが流行する前に行っていた三送会はステージで発表を行うものだった。しかしコロナの影響で、55回生、56回生の三送会は中止。そして昨年の57回卒業

時に新たな行事「卒祝会」として復活した。昨年の卒祝会は、本部生徒が話し合い運動会形式のものを実施した。しかし今年は昨年とは異なり、以前実施されていた三送会のように、体育館にて発表形式で行う。また昨年の卒祝

会が3年生のみの参加だったが、今年は1、2年生も自由に参加できる。

三送会後は後輩が3年生を送るための行事であったため、2年生が主体となって開催されていたが、今年度の卒祝会は昨年に引き続き3年生が主体となって行われる。3年生が主体となって実施される理由には、コロナの影響もあるが、1、2年生の中で発表を行いたいという声が多かったという理由もあるという。三送会では1、2年生がやってくれることに対して、3年生があまり盛り上がりがないという実情があった。それなら3年生が自分たちでやったほうが良いという結論に至り、このような形になった。

今回の卒祝会は発表形式だが、発表をする3年生の出演者は昨年12月頃から募集され、今回は7クラスと有志5団体がダンスや歌、映像など

の発表を行う。さらに、先生や本部生徒による企画も実施される。各団体の発表順、発表内容は裏面に掲載する。

「卒業前に生徒が行う最後のイベントなのでぜひ携わりたい」という思いから本部として活動しているという卒祝会チーフの大石幸次郎さん(3J)。チーフになった理由を「チーフになったことがないので自分にとっても良い経験になると思ったからです」と話す。

卒祝会の準備は各係に分かれて作業を行っているが、全体としては計5回集まっている。その際に大石さんは「会の運営においてどんなことをしたらみんなに楽しんでもらえるかなどいろいろ考えることが考えられるので、その吟味が楽しいです」と語る。しかし、どんなに実現性が高そうな案でも行動してみないと分からないことが多いと、それが大変だそう。大石さんは卒祝会で発表をする生徒へ向け「卒祝会で盛り上げれば最高！失敗したとしてもすぐ卒業です！つまり「卒祝会の恥はかき捨て」なので、とにかく楽しみましょう！」とエールを送る。また、卒祝会のテーマである「最後にして最大のエンターテイメント」を目指して頑張りたいという大石さん。最後に、58回生へ向け「卒祝会が高校3年間の1

の発表を行う。さらに、先生や本部生徒による企画も実施される。各団体の発表順、発表内容は裏面に掲載する。

「卒業前に生徒が行う最後のイベントなのでぜひ携わりたい」という思いから本部として活動しているという卒祝会チーフの大石幸次郎さん(3J)。チーフになった理由を「チーフになったことがないので自分にとっても良い経験になると思ったからです」と話す。

の発表を行う。さらに、先生や本部生徒による企画も実施される。各団体の発表順、発表内容は裏面に掲載する。

むらさき草

1、2学期に世界史の授業で視聴した『映像の世界』シリーズ。本作品は、20世紀の世界の様子を実際の映像や回顧録、証言を用いて描いた作品である。中でも私が印象に残っているのは数多くの戦争のシーンだ。本作品で取り上げられていた戦争は、各国が「自分たちは正しい」と思い込みながら行われていたように感じられる。しかしそれは、本当に「正解」と言える行動なのだろうか――▶ ROWINGSの「正解」に「ああ、答えがある問いばかりを 教わってきたよ。そのせいでどうか、僕たちが知っていたのは、いつも正解などまだ銀河にもない」という歌詞がある。この曲中で「僕たちが知っていた答えがない問い」として、一番大切な君と仲直りの仕方、大好きな女の子の心の振り向かせ方、喜びが溢れて止まらない夜の眠り方、悔しさで滲んだ心の傷の治し方、傷ついた友の励まし方の5つが挙げられている。あなたもこのような問いを思い浮かべたことがあるのではないだろうか▼しかし、これらに答えなど存在しないのだ。人生とは、先に挙げた5つの問い以外にもたくさん問いを見つけ、そのあるはずのない答えを探しながら、悩んで生きていくことなのだろう▼大事なのは、最初からありもしない「正解」を出そうとすることではなく、何度も遠回りしながら「正解」を自分でつくり出すこととする。 「正解」は元々あるものではない。自分でつくるものだ▼この3年間、新聞委員会編集部を辞めたいと思うことが何度もあった。きつとその時に辞めていたら、それはそれでその行動が「正解」となっていたらどうだろう。しかし、辞めなかつたからこそ得られた経験もある。クラスが違う人たちと出会い、一緒に紙面を作り、その結果として全国大会に出場したり、実行委員長を務めたりもした。あと1か月で卒業となる今、こうして高校生活を振り返ってみると、人生で1度きりの高校生活3年間、編集委員として活動することができて本当に良かったと思う▼高校時代の3年間、編集委員を続けていたこと、そして編集委員をはじめとする錦城で関わったすべての人たちと出会えたことは、私にとっても「正解」なのだろう。(紅)

つ思い出になれば嬉しいです。卒業前の最大のエンターテイメントを楽しみましょう」と呼びかけた。

休校期間から錦城での高校生生活が始まり、行事も制約が

多かつた58回生。昨年に行われた表現祭や東北旅行など新たなカタチの行事を創りあげてきた。そして今回の卒祝会が最後の行事となる。卒業まで残りわずかとなった58回生の輝く姿を卒祝会本番お届けする。